

11 東海大学

Tokai University

Tokai Formula Club 初優勝をめざして 2014年度日本大会までの取り組み

東海フォーミュラクラブ

Tokai Formula Club

<http://formula.shn.u-tokai.ac.jp/>



Presentation プレゼンテーション

マシン名：TF2014

今大会は2012年度入学生を中心として「日本大会総合優勝」を目標に活動を行ってきました。当チームの日本大会での成績及び海外チームを含めた車両性能の動向を調査した結果、目標達成のためには、新規システムを積極的に投入しながら信頼性の向上を図ることが必須であると考えました。そこで、車両コンセプトを「究極～斬新さと正確性の追求～」としました。車両開発面においてはコーナリングのボトムスピード向上に重点を置きました。マスの集中化と低速域でのトルク向上を狙ってV型2気筒エンジンを縦置きプロペラシャフト駆動とし、フルカーボンモノコックによりフレーム重量を例年の半分程度に抑え、輪荷重の増大を図るべくフルエアロデバイスを採用、といったように今までにない新規システムを大量に盛り込んだ車両が完成しました。

もちろん、闇雲に新規システムを投入せず、車両性能への影響と開発規模とを精査しながら、適材適所での投入を意識しました。また、信頼性の向上については膨大なテスト走行によって確立をしました。大会までのテスト走行距離は500kmを超え、例年に比べて2～3倍のテスト走行を行うことができました。

これらの取り組みにより、「究極～斬新さと正確性の追求～」というコンセプトを達成した車両とすることができました。

Participation report 参戦レポート

初日の車検はボルトの長さを指摘され再車検となってしまいましたが、すぐに修正し、車検をクリアすることができました。車検・ドライバー脱出・チルト・騒音テストをどのチームよりも早く済ませることができました。2日目は主に静的審査に臨みました。コスト審査は昨年よりも得点は向上したものの、結果は54位と、満足のいかない結果となりました。しかし、デザイン審査・プレゼンテーション審査はそれぞれ5位、6位と昨年に比べ、飛躍的に伸びる結果となりました。

3日目はスキッドパッドから審査に臨みました。しかし、車両のセットアップが充分できておらず、36位という悔しい結果となってしまいました。アクセルレーションの審査についても19位となりました。

その後車両のセットアップをぎりぎりまで煮詰め、オートクロス審査に臨みました。タイム的にはエンデュランスファイナルに入るレベルでしたが、パイロントッチによるタイム加算により、11位となりました。そして、翌々日のエンデュランスでは総合5位、燃費審査11位に入ることができました。

以上の結果から、総合6位を獲得することができました。Tokai Formula Clubとしては二度目の入賞、そして関東勢では最も高い成績を残すことができましたが、目標に及ばず、関係者の方々の期待を裏切るものとなりました。優勝にたどりつかなかった原因を充分考察し、次代に引き継いでいきたいと考えています。

最後に応援して頂いたスポンサー様、大学関係者の皆様、OB、後輩、全ての方にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今回の総合結果・部門賞

- ICV総合優秀賞6位
- 総合6位
- 日本自動車工業会会長賞

Profile チーム紹介・今までの活動

Tokai Formula Clubは「1からのものづくり」をテーマに活動を行っており、設立当初から「学年ごとにプロジェクトを結成」とする形を取っています。この体制により、1からのものづくりを学ぶことができ、設計・製作、テスト走行だけでなく、チームの運営や金銭管理等全ての過程を経験することができます。

Team-member チームメンバー

奈良 祥太朗 (CP)

吉永 昌史 (FA)、二木 明穂、能島 良輝、野村 将之、中市 大揮、佐藤 京平、眞野 悟、小島 巧、宮本 崇弘、斎藤 敏樹、木田 将寛、岡戸 崇矩、松田 雄己、石田 直己、佐藤 智喜、古市 レオナ

Sponsors スポンサーリスト

スペース不足につき、以下のURLよりご覧ください。
<http://formula.shn.u-tokai.ac.jp/sponsors.html>

Team-Movie <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/12th/movie/11.html>